

改訂版に記載する項目について（第1案）

改訂版に記載する項目（案）	現在の記載項目
<p>0 はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経緯 <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組の評価を含める。 ・ 戦略的対応を行う理由 <ul style="list-style-type: none"> 例えば、 科学的に未解明 特定のライフステージや生物種への影響 次世代への影響 環境中に存在し、微量でも影響与える可能性 既存の制度（管理）で対応できているか不明 不安に基づく社会・経済的損失 ・ 目的（何を解決すべきか） <ul style="list-style-type: none"> 例えば、 影響の有無・程度・内容の把握 管理方策の構築 不安の軽減 	<p>0 はじめに</p>
<p>内分泌攪乱化学物質問題について 注：全体について、<u>合成女性ホルモン・人畜由来女性ホルモン、植物エストロジェン</u>を含めて記載する。</p> <p>1. 内分泌攪乱化学物質とは</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現状の概要 <ul style="list-style-type: none"> 例えば、何が分かって、何が分かっていないのか 調査研究に当たって考慮すべき事項 (2) 内分泌攪乱化学物質の定義 (3) 作用メカニズム等 (4) スクリーニング・試験法 <p>2. ヒトや野生生物等への影響</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ヒトの健康への影響に関する報告例及び評価 <ul style="list-style-type: none"> 例えば、生殖、免疫、神経、がん (2) 野生生物への影響に関する報告例及び評価 <ul style="list-style-type: none"> 例えば、無脊椎動物、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類 <p>3. 曝露</p>	<p>内分泌攪乱化学物質問題について</p> <p>4. 天然女性ホルモン等</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人畜由来女性ホルモン等 (2) 植物エストロジェン <p>3. 調査研究に当たって考慮すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌攪乱化学物質とは (2) 内分泌攪乱化学物質の定義 1. 内分泌攪乱化学物質とは (3) 内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム 2. スクリーニング・試験法について 1. 内分泌攪乱化学物質とは (1) ヒトや野生生物への影響
<p>以下略（今後検討）</p>	<p>本問題に対する環境庁の対応状況と今後の方向性について</p> <p>世界の取組の動向について</p> <p>図表、参考等</p>